

J-PARC 中間評価作業部会について

1. 概要

- 「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」（平成29年4月1日最終改訂）において、実施期間の定めがない研究開発プログラムは5年ごとを目安に中間評価を実施するとされていることに基づき、前回の中間評価（平成30年6月）における指摘事項への対応状況について評価を行うとともに、研究開発の質の向上や運営改善、計画の見直し等につなげることを目的として、J-PARC 中間評価を実施する。
- 評価の結果については、課題への適切な対応や J-PARC による研究開発成果の最大化を図ること等に活用する。

2. 作業部会について

- 大強度陽子加速器施設評価作業部会では、量子ビーム分野以外も含む J-PARC 全体の評価を行う予定であることから、量子科学技術委員会、原子力科学技術委員会、研究環境基盤部会のもとに、作業部会を設置予定。

3. スケジュール（予定）

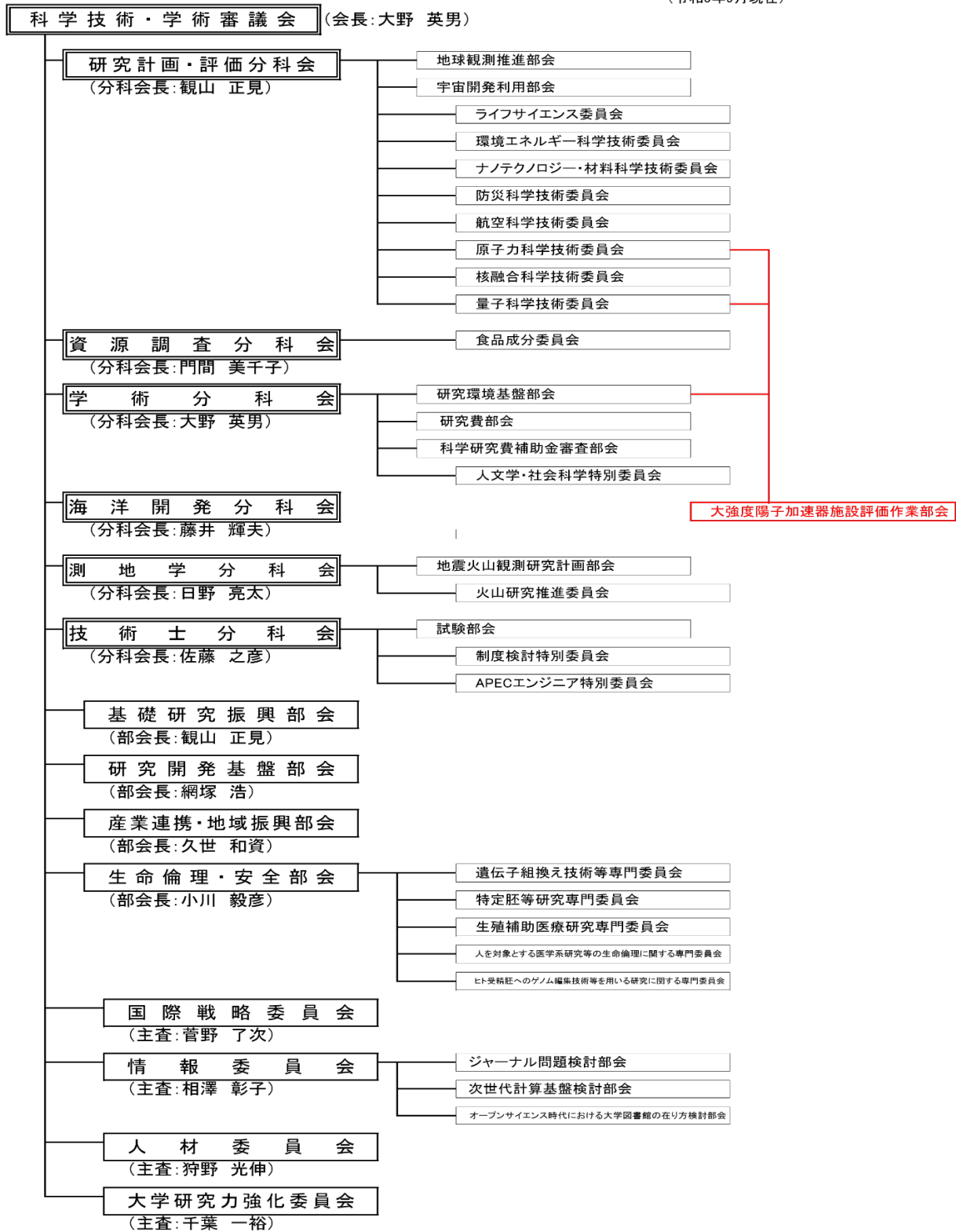
- 11月上旬 第1回
- 11月中旬 現地調査
- 11月下旬 第2回
- 12月上旬 第3回
- 12月下旬 第4回（まとめ）
- 年明け 第51回量子ビーム利用推進小委員会にて中間評価結果の報告

（参考）前回中間評価（平成30年6月）における指摘事項（主なもの）

- 生命科学用実験装置の整備については、重要な研究開発課題やイノベーション創出を加速する仕組等の検討を、ユーザーコミュニティが主体となり施設とともに進めていくことが求められる。
- 施設の運営に「経営的視点」を取り入れ、経年劣化対策や更なる財源の多様化、施設の高度化に向けた重点投資等を一体的に検討した中長期的な経営計画を策定し、設の経営基盤を強化していくべき。
- 日本全体の中性子・ミュオン利用の振興に係る課題（成果創出、人材育成、産業利用、国際化など）を、大学、施設、企業等の組織横断的に議論する場を提供し、その中核として主導的役割を果たすべき。これまでに蓄積された人材、施設、ネットワークを最大限有効に活用することが重要。
- 他施設（JRR-3、中・小型中性子源等）との連携により、コミュニティ全体として効率的・効果的な取組（施設間の申請課題の連携、人材育成等）を検討する。

大強度陽子加速器施設評価作業部会の位置づけについて

(令和5年9月現在)



大強度陽子加速器施設評価作業部会の設置について

研究計画・評価分科会量子科学技術委員会
研究計画・評価分科会原子力科学技術委員会
学術分科会研究環境基盤部会

1. 設置の趣旨

大強度陽子加速器施設（J-PARC）は、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構と大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構の共同プロジェクトとして、平成 13 年より建設が着手され、平成 20 年から中性子ビームの供用を開始、平成 21 年から原子核・素粒子実験を開始した。

「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」（平成 29 年 4 月 1 日最終改訂）により、研究開発プログラムは 5 年ごとを目安に中間評価を実施することとなっているところ、前回の中間評価（平成 30 年 6 月）から凡そ 5 年が経過しているため、前回評価における指摘事項への対応状況等について評価を行うとともに、今後の課題と方向性について検討を行う。

2. 主な検討事項

- （1）前回の中間評価における指摘事項への対応状況等についての評価
- （2）今後の課題と方向性についての検討

3. 設置の形態

「大強度陽子加速器施設評価作業部会」を科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会量子科学技術委員会及び原子力科学技術委員会並びに学術分科会研究環境基盤部会の下に合同で設置する。

4. 庶務

関係課室の協力の下、科学技術・学術政策局研究環境課が処理する。

5. 当面の予定

令和 5 年 10 月に第 1 回を開催予定（全 5 回程度を予定）